

第29回社会事業史文献賞受賞



留岡幸助と家庭学校

改訂普及版

近代日本感化教育史序説

二井仁美 ● 著

不二出版

愛こそが最も堅固な障壁である——と「不良少年」を収容・監禁するのではなく、教育の必要な存在として家庭的な寮舎に迎え、塀や格子を排した感化院Ⅱ家庭学校（一八九九年設立）。創立者・留岡幸助（一八六四～一九三四）は、子どもたちの将来をも見据えた壮大な教育実践の場として北海道に分校と農場を設立し、幼少の子どもたちのための茅ヶ崎分校も開設し、事業を展開した。しかし貧困と虐待の果てに送られてきた子どもたちの暴力と逃亡という現実に苦しみ、少年の「島行」すなわち小笠原諸島の農家への「委託」という選択もした。その感化教育思想を二度の海外視察の跡を丁寧にとどり、家庭学校での教職員の記録を詳細に検討して明らかにする。家庭学校と留岡幸助の実像に迫り、近代日本の感化教育の問題を照らす好著！

A5判・並製・402ページ

2020年9月刊

定価●本体価格4,200円＋税

ISBN978-4-8350-8355-1

推薦します

留岡幸助の苦悩とともに 逸見勝亮

本書は、留岡幸助の、「不良」少年も家庭と学校で養育すべきとのキリスト教的信念にしたがい、塀・格子・施錠を排した「開放処遇」の私立感化院・家庭学校から、自律していく少年の諸相を鮮明にした。留岡の職員養成論・慈善事業師範学校設置が、感化法制の空隙を衝いたことも知らされる。北海道分校設置は、感化院の自立的運営を果たし、監獄的イメージの一掃を目指した留岡の理想主義の発露であり、欧米社会事業施設視察は、彼の信念に確信を与えたことも明らかにされた。

本書は、日誌、留岡の手帳・書簡・留岡旧蔵図書の書き込みなど、家庭学校所蔵史料に拠って、家庭学校生徒の処遇状況、入校相談、海外視察先における留岡の思索などを緻密に実証した。それは、著者が東京・北海道家庭学校所蔵史料の整理・目録刊行に多大な時間を割き、留岡が訪ねた欧米の施設をたどることで可能となった。そして家庭学校が東京府代用感化院の任を負った結果、受け入れた「厳悪」少年の逃亡予防策と小笠原諸島への送致を余儀なくされたこと、寄付金を募るには留岡の在京は不可欠であり、彼の家庭学校北海道分校滞在はごく限定的たらざるを得なかったことも、説きおこせたのである。

本書は、感化教育の理論家・実践家として、社会事業史に屹立し続けている留岡幸助を、感化法制、司法・内務行政と施設経営の間で苦悩する——その根幹は「不良」少年の処遇と未来にあった——まさに抉りだした。

(へんみまさあき 北海道大学名誉教授)



家庭学校の教職員と支援者

左から上野他七郎・小塩高恒・留岡菊子・留岡幸助・一人おいて山本徳尚・小崎弘道

序章

- 第一節 感化院の誕生と家庭学校
- 第二節 先行研究の整理
- 第三節 本書の課題と方法

第1章 留岡幸助の感化教育思想

- 第一節 教誨師・留岡幸助の問題意識と研究
 - 1 一九世紀欧米監獄事情と北海道集治監
 - 2 北海道集治監教誨師としての活動
 - 3 欧米監獄情報の収集
 - 4 監獄内処遇への関心と渡米の志
- 第二節 アメリカ合衆国およびカナダでの感化教育情報の収集
 - 1 感化監獄の視察と研究
 - 2 感化院に関する研究
- 第三節 帰国後の活動と感化院設立構想
 - 1 既往の感化院
 - 2 東京感化学校設立計画
 - 3 感化院に関する著述活動

第2章 家庭学校の創設

- 第一節 私立感化院家庭学校の創設
 - 1 家庭学校創設の趣意
 - 2 家庭学校における「家庭」
 - 3 家庭学校における「学校」
 - 4 草創期の家庭学校における生徒の様態
 - 5 家庭学校の教職員と慈善事業師範部の開設
- 第二節 感化法の成立と家庭学校
 - 1 感化法の成立
 - 2 第一次感化法と留岡幸助
- 第三節 留岡幸助の一九〇三年における欧米視察
 - 1 二〇世紀初頭の欧米における社会事業
 - 2 欧米視察の経緯と概要
 - 3 ラウエハウスの「家族制度」
 - 4 コロニー・システムのイメージ

第3章 東京府代用感化院家庭学校

- 第一節 第二次感化法の施行（一九〇八―一九二三年）
 - 1 東京府による感化院設置と代用感化院指定
 - 2 家庭学校における代用感化院生専用舎寮の工事
 - 3 代用感化院生の入校
- 第二節 代用感化院生専用舎寮の諸相と小笠原への「委託」
 - 1 代用感化院生専用舎寮における混乱
 - 2 小笠原母島の農家への「委託」開始
 - 3 感化院生の小笠原諸島への「委託」
- 第三節 第二次感化法制定下における家庭学校
 - 1 家庭学校の経営と代用感化院指定受諾
 - 2 留岡幸助の代用感化院生に対する認識
- 第四節 内務省地方局囑託・留岡幸助
 - 1 感化法施行と感化救済事業講習会
 - 2 感化救済事業講習会にみる留岡の主張
 - 3 地方改良事業講習会における留岡の主張
 - 4 感化院長協議会にみる感化教育の困難

第4章 家庭学校北海道農場の開設

- 第一節 コロニー・システムの構想と「新農村」の創設
 - 1 北海道農場の開設
 - 2 農業と殖民に対する期待
 - 3 家庭学校の経営と北海道農場
- 第二節 家庭学校への生徒の入校
 - 1 入校相談の様相
 - 2 入校許可の判断
 - 3 入校の状況
- 第三節 東京、北海道、小笠原諸島における生徒の動態
 - 1 社名淵分校への移動
 - 2 北海道農場開設後における小笠原への「島行処分」
- 第5章 家庭学校茅ヶ崎分校の開設
 - 第一節 第三次感化法の施行（一九三三―一九三四年）
 - 1 少年法案審議にみる家庭学校
 - 2 留岡幸助の少年法批判

- 3 第三次感化法施行による感化院の入院対象者
- 第二節 家庭学校の経営と二八分校体制
 - 1 茅ヶ崎分校開設後の家庭学校の経営
 - 2 茅ヶ崎分校の教育
- 第三節 第三次感化法制定下の社名淵分校
 - 1 北海道農場における社会教育的活動
 - 2 社名淵分校の経営と道庁代用感化院指定
 - 3 社名淵分校の様態と留岡幸助の対応

第6章 留岡幸助校長時代の終焉

- 第一節 社名淵分校教頭兼家族長・留岡清男
 - 1 コロニー・プランの提案
 - 2 留岡清男による「家庭学校整理改造案」
- 第二節 茅ヶ崎分校閉鎖と家庭学校縮小
 - 1 茅ヶ崎分校閉鎖と東京府代用感化院指定解除
 - 2 小塩高恒の辞職と小塩塾の開設
 - 3 少年教護法の制定

終章

あとがき・改訂普及版に寄せて
留岡幸助・家庭学校関係略年譜
索引
引用・参考資料一覧
図表一覧／写真出典・提供一覧

●著者紹介―二井 仁美（にい・ひとみ）

現在 北海道教育大学教授
主な編著

・子どもの人権問題資料集成 戦前編 第四～六巻 子どもの保護教育（一～三） 不二出版、二〇〇九年
・『イギリスの子どもも虐待防止とセーフガーディング―学校と福祉・医療のワーキングトゥギャザー』岡本正子、中山あおい、二井仁美、椎名篤子編著、明石書店、二〇一九年

改訂普及版に寄せて (本文より抜粋)

拙著『留岡幸助と家庭学校 近代日本感
化教育史序説』初版本が刊行されて、十年
が経過した。

このかん、社会事業史学会から本書に對
して、第二九回社会事業史文献賞を賜った。
「今後の社会事業史研究にとっても貴重な
共有財産となる研究書」と身に余るご推薦
をいただき、感化教育史や社会事業史研究
に「新たな地平を切拓」いたと評していた
だいた(『社会事業史研究』四〇号)。光榮
の至りである。筆者の喜びは、何よりも本
書が「家庭学校所蔵史料の整理・目録化
という地道な基礎研究をベース」として
いることを評価された点にある。東京家庭学
校および北海道家庭学校のご協力なしには
実現しない研究であり、両校への感謝は尽
さない。〔中略〕

さらに、直接にも多くの感想をお寄せい
ただいた。ご教示やご指摘、賜った課題は、
筆者にとって研究の励みとなっている。と
りわけ、椎名篤子氏からいただいた、「家
庭学校」は「子どものためにどう存在して
いたのか?」という問いは、筆者にとって
も重要な視点であり、今日も意識し問い続
けているテーマである。

二〇二〇年三月 著者・二井仁美

近刊 戦争孤児関係資料集成 第Ⅰ期 愛児の家史料 全5巻

- ◎協力Ⅱ社会福祉法人愛児の家
 - ◎編集・解説Ⅱ浅井春夫・長香織・酒本知美
 - ◎推薦Ⅱ大友昌子・本庄豊
 - ◎B5判・上製・布クロス装・総約2,000頁
 - ◎全2回配本 本体揃価格105,000円＋税
 - ★2020年11月第1回配本(第1～3巻) 予定!
- 終戦直後、組織や団体の後ろ盾もないなか、「戦争孤児」の
救済を独力ではじめた石綿貞代の愛児の家(東京)――。
その愛児の家で大切に保管されてきた、子どもたちの指導
記録、児童票、育成記録はじめ、寄付状況、施設運営資料、
行政資料、そして児童やその家族と取り交わした書簡類な
どを、愛児の家の全面的な協力のもと、ついに復刻!
- 永いあいだ未解明であった「戦争孤児」の実態を明らかにし、
戦後史の空白を埋める空前の史料群を順次刊行予定!
- 主な収録史料Ⅱ「退所児童措置指導記録簿」「児童名簿」
「育成記録」「里子関係書綴」「中児関係書綴」「役員職員
名簿」「卒業生感想文綴」等

既刊 室田保夫 著 留岡幸助の研究

- ◎A5判・上製・函入・552頁
 - ◎本体価格9,500円＋税
- 近代日本における代表的な社会事業家・留岡幸助の前半生
―岡山高粱での少年時代から、牧師・北海道バンド・米国
留学・教師を経て家庭学校の創設、「人道」の発行まで―
をあとづけた力作。

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
電話03-5981-6704
ファクシミリ03-5981-6705
振替001600294084